

1 自動運転バスの経緯と運行状況

経緯

- R1 4. 22 **岐阜市公共交通自動運転技術活用研究会** 設立
- R2 11. 12 自動運転実証実験(4日間) 体験乗車：196人
～ 15 県内で初めて**中心市街地の公道**を自動運転バスが走行
- R3 10. 23 自動運転実証実験(9日間) 体験乗車：514人
～ 31 県内で初めて**ハンドルやアクセル、ブレーキペダルがない自動運転バス**が走行
- R4 10. 22 自動運転実証実験(約1ヶ月間) 体験乗車：1,537人
～ 11. 20 歩行者と車両が分離されていない川原町を通る**岐阜公園ルート**を追加し、約1ヶ月間の実証実験
10. 25 共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)(文部科学省)採択
名古屋大学が主体となり、岐阜大学や企業などと連携
- R5 11. 25 **中心市街地では全国初**となる、自動運転バス
～ **GIFU HEART BUS**の**5年間の継続運行**をスタート
- R6 必要な**インフラ整備**を実施(信号協調システム、路車協調システム)
- R7 レベル4に対応する**新車両の運行**をスタート



R5～継続運行の概要



車両	ARMA (従来車両)	Robobus (新車両)
台数	2台	1台
時間	10時から16時	
ルート	中心部ルート 毎日 6便 岐阜公園ルート 土日祝 3便	中心部ルート 毎日 6便
その他	<ul style="list-style-type: none"> 運賃 無料 乗車定員 10人 最高時速 20km (自動運転時) 予約制 ※空席があれば予約なしでも乗車可 	
国庫補助金	【国土交通省 都市局】 ・社会資本整備総合交付金	【国土交通省 自動車局】 ・地域公共交通確保維持改善事業費補助金 【内閣府 地方創生推進室】 ・新しい地方経済・生活環境創生交付金

新車両の導入

従来車両の自動運転割合と主な手動介入要因



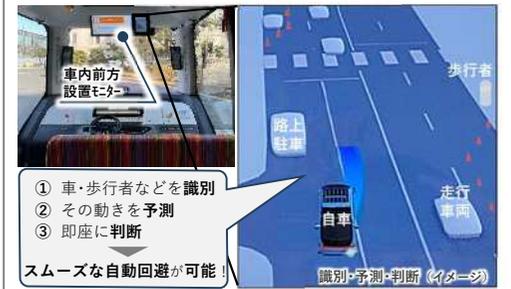
新車両の特徴

POINT 1 高度な車載装置による検知



- 高度な車載装置で周囲360度、最大約200m先の障害物を検知(200m先まで「検知」、120m先まで20cm以上の物体を「識別」)
- カメラで最大約200m先の信号を認識し、自動で停車・発車
- 集音マイクで救急車等の緊急車両の接近を検知し、自動で停車

POINT 2 AIを活用した自動走行



- 走行ルートや障害物回避等の条件を予め3Dマップに設定
- カメラやセンサーが捉えた車や歩行者等の動きをAIが予測
- AIの予測を踏まえ、予め定めたルールに基づき障害物等を回避
- スピードなど相手車両の動きに合わせたスムーズなブレーキ

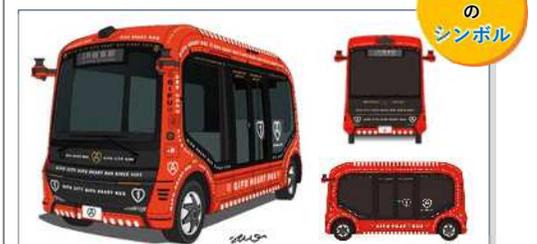
POINT 3 将来の実装を見据えた車内レイアウト



車内レイアウト



POINT 4 魅力的な車両デザイン



賢い新しい楽しい美しい面白い
オンリーワンの岐阜の心意気を表現



運行便数 (R8.2.11時点)

総合計 10,611 便

乗車人数 (R8.2.11時点)

総合計 95,853 人 (約 9.0 人/便)